

“わかどりが未来へ抱負

東習志野小学校50周年

東習志野小学校の創立50周年記念式典が平成30年12月8日、同校体育館で開かれた。

総合教育センター、東習志野こども園、第四中学校などが隣接する文教地区にあり、樹木など自然豊かな環境に恵まれた東習志野小は昭和44年に15学級、627名の児童、22名の教職員で開校した。開校から数分で児童数は1727名を数え、その後は減少を見せるが、校歌の歌詞にある“わかどり(若鳥)“たち6525名が巣立っていった。現在は972名が学び、吹奏楽部は毎年コンクールで優秀な成績を収め、陸上競技大会など体育大会での活躍が目覚ましい。

50周年を記念し、6月の運動会では児童たちが自分の夢を書いたカードを風船につけて飛ばす“バルーンリリース”を行った。風船を拾った県内各地の人からは“夢がかないますように”“一歩ずつ進んでいって下さい”といった温かいメッセージが届けられた。式典で鈴木清彦校長は“恵まれた現在の環境は、学校、家庭、地域が一体になってこそ可能です。『未来を開拓し、主体的に行動する心豊かな子ども』の育成”という学校教育目標が指すのは、子供の姿だけにとどまらず、保護者や地域のみならず、教職員の姿

も示唆しているように思えてなりません。子供たちにとっては、歴史と伝統のあるこの東習志野小学校で学んだことが自信となり、日々の思い出は一生の宝物になることでしょう。運動会の日には『夢』を乗せた風船が上空に向かって高く飛んでいったように、新しい明日を目指すわかどりが習志野市を背負って立つ日を期待しています。きょうの佳き日が、本校が繁栄し続けるための新たな第一歩とすることを約束します”と述べた。



6年生児童による未来への抱負発表「未来を担う」

第2部では、児童代表の進行により、全校児童が発した。1年生はオリジナルのみのこしをかつぎ、2年生は手作りした楽器で明るく盛り上げ、学校のいいところを歌に込めた東習音頭

たくさん地域の人が出席した会場も手拍子で応援した。3年生は学区の様子と学校の歴史について紹介。未来も笑顔でいっばいになれるように「手をつなごう」に声を合わせた。

4年生は「未来へJump!」と、同校が力を入れる縄跳びを披露し、ドレミファナラシドゥを踊り、5年生は50年の歴史を未来へつなげていこうと「希望という名の花を」を合唱した。6年生は「未来を担う」と題し、縁のある先輩たちからの話、自分たちに残せるのか、一致団結や友情の大切さ、学んだ思い出などについての思いを語った。

「悔いのないよう全力で優勝へ」

スポーツ少年団体育祭



ラジオ体操で準備運動

習志野市スポーツ少年団の第44回体育祭・平成30年度千葉県スポーツ少年団大会が平成30年11月4日、秋津小学校グラウンドで開かれた。

スローガンには「悔いのないよう全力で優勝へ突き進め」が掲げられ、スポーツ少年団に所属する野球、ソフトボール、剣道、サッカー、ミニバスケットボール、陸上競技のチームが赤、白、緑の各組にわかれ、障害物競争、棒引きなどを競った。

開会式では本部旗手を務めた藤崎シークレットの平山遥さんを先頭に団員が元気に入場行進。前年度優勝チームから優勝杯の返還が行われ、実力クラブの黒田稀人さん、高野遥斗さん、山内真翔さん、習志野フェニックスの竹林幹太さん、習志野MSS・香澄の高谷日向さんが日本スポーツ少年団員綱領にある「わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ、平和な世界をつくります」などの「誓いの

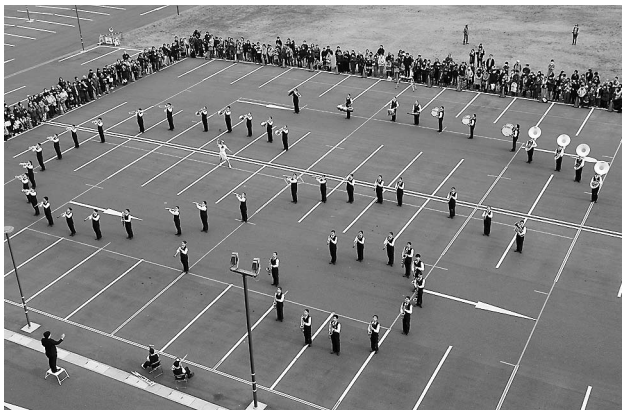
2年連続で4校金賞

全日本マーチング

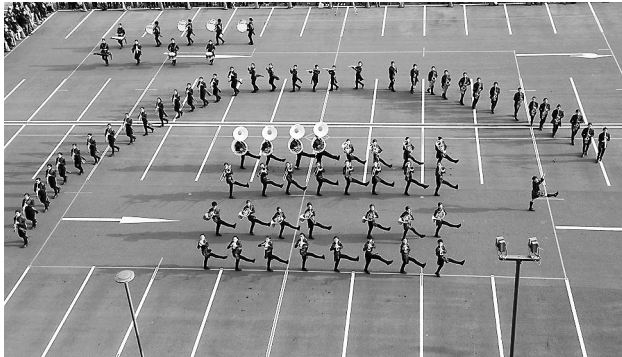
全日本小学校バンドフェスティバルと全日本マーチングコンテストで金賞を受賞した大久保小学校、第二



大久保小学校吹奏楽部



第二中学校吹奏楽部



第四中学校吹奏楽部



習志野高校吹奏楽部

中学校、第四中学校、習志野高校の吹奏楽部が平成30年12月2日、習志野市役所で演奏を披露した。

第37回全日本小学校バンドフェスティバルは11月17日、第31回全日本マーチングコンテストは18日に大阪城ホールで開催された。全日本小学校バンドフェスティバルに3年連続7回目の出場となった大久保小は昨年に続き2年連続、16回目の出場となる習志野高校はフランスを主題に5年

連続で栄冠を手にした。4校そろっての金賞受賞は2年連続となる。

会場の市役所駐車場には演奏会が始まる2時間以上前から並ぶ人もいて、大勢の観客の中、4校は見事な

二中でドラムメジャーを務めた玉越杏果さんは「3年生にとって最後のマーチングを最高の舞台で二中のみんなと演奏・演技ができて幸せでした。本番では最初からいまままでにいい声で気持ちが入っている思い出です」と喜びを語った。四

壮大に「袖ふり舞太鼓」

和太鼓 in ならしの



和太鼓そで鼓連による「袖ふり舞太鼓」

「2018和太鼓inならしの」が平成30年11月11日、習志野市民会館で開かれた。

袖ヶ浦こども園の年長のよい演目を次々に披露。屋台囃子の力のこもったかけ合いに観客席からは拍手が起った。最後の曲は和太鼓そで鼓連の初代会長で長年相談役を務めた袖ヶ浦東小学校の3年生、袖ヶ浦公民館和太鼓倶楽部で稽古を積んだ子供たち、和太鼓そで鼓連の面々が出演。会場は1000名を超える来場者を迎えた。

子供たちは「火炎太鼓」「八丈ごんどう太鼓」「袖西木連太鼓」「袖ヶ浦ばやし」などを元気に演奏、心を一つに調子を合わせ、特別出演した和太鼓奏者の鈴木淳一氏は和太鼓そで鼓連を15年間にわたり指導してきた。昨年、演奏

運営に当たってきた。仲倉氏は18年にわたり、軟式野球専門部長として活躍している。谷津サザナミは42年間活動し、指導者、団員ともスポーツ少年団の中心となつて活動。藤崎シークレットは昭和46年に創設され、団員は市のイベントなどに積極的に参加し、指導者・保護者とも運営に携わっている。